

傍聴席のみなさま、本日は議会傍聴ありがとうございます。

私は、請願第 34 号（仮称）ボートピア津幡建設計画の完全撤回を求める請願に賛成の立場で討論いたします。

「津幡町の子どもたちの育つ環境を考える 700 人委員会」が町長に要望書を出したのは 2 年前、平成 18 年 10 月 23 日のことでした。

わずか 2 週間で集まった、賛同者 713 人の連名で、ボートピア誘致について慎重に考えてほしいと、町長にお願いをしたのでした。

町長は「反対の声があることを初めて知った、総合的に判断する。」と何度も繰り返され、にも関わらず、驚くばかりの速さで、その僅か 2 日後の議会全員協議会で、建設容認の発表をされたのでした。

津幡町のめざす町とは、いったいどんな町なのでしょうか。

津幡町第 4 次総合計画の 4 つの柱、「人にやさしい町」とはどんな町でしょう。有権者の過半数に及ぶ 1 万 4 5 6 1 人もの民意を握りつぶす町でしょうか。ギャンブルにはまっていく人を、貴重な財政源としてただ見ていることでしょうか。ボートピアに行く人の自己責任、と知らんぷりをきめこむことでしょうか。

「活気あふれる町」はどうでしょう。ギャンブルで活気あふれる町になるというのでしょうか。

「心が潤う町」、、「安全で安心な町」、どこを、どう探しても、ボートピアのようなギャンブル場とは僅かの接点さえ見つかりません。

ボートピアは私たちの町に本当に必要な施設だと思われませんか。本当に津幡町の発展になくてはならない施設だと思われませんか。これまで石川県内の各地で反対されたものを、津幡町でもこれほどノーと言っている人たちがいるのに、説明会さえ開かず、なぜ強引に作らなくてはならないのでしょうか。

それほど素晴らしい施設ならば、あちこちの町がこぞって誘致するはずではありませんか。ボートピアは、これまでほとんどの町で反対されています。

宮城県石巻市では、2 年間かけて、舟券売り場を撤退させました。国土交通省が認可したにも関わらず、今年の 6 月、市長は舟券売り場誘致を断念しました。その原動力となったのは、母親連絡会などに参加する女性たち、市民の声に耳を傾けた議会の力だったそうです。

財政難をふりかざし、自己財源が必要なのだ、ボートピアを誘致しなければ、夕

張の二の舞になるかもしれないと言われれば、津幡町の善良な町民の中には、誘致やむなしの空気も生まれるでしょう。ボートピアができれば水道代が安くなるという噂が流れたこともありました。

しかし、ギャンブル場を誘致するほどの逼迫した財政難なら、まだまだ無駄な支出を見直さなくてはならないのではないのでしょうか。カットすべきことがあるのではないのでしょうか。

世界的な金融危機から、日本経済も大打撃を受け、未曾有の大不況に突入しています。企業の倒産、従業員の解雇、新卒者の内定取り消しが相次ぎ、地方にも不況の波がひしひしと押し寄せています。このような不安な社会情勢の中、今更なぜボートピアなのでしょう。計画された3年前とは社会事情は大きく変化しています。

あるお母さんがボートピアについて書いたメールを、今も思い出します。

私の、賛成か反対かを考える基準はただひとつ、今も将来も子どものためになるものかどうか、それだけです。2人の子の親として一生懸命考えました。答えはノーです。ですから、反対の署名をしました。私にできることは署名をすることぐらいですが、小さい声でもたくさん集まれば大きな声になりますよね。

あるお母さんからはこんな言葉が届きました。

あれは、「津幡町の子どもたちの育つ環境を考える700人委員会」という長い長い名前でした。津幡町で生まれ育った子どもたちが「津幡はすてきなふるさとです」って胸張っていえるような津幡町であってほしいと心から思います。

子どもたちの未来に何を残すかは、大人の生き方次第、私たち大人や親の責任だと思います。私は、「すてきなふるさと」を残してやりたいと思って700人委員会に名前を書いたことを思い出しました。

美しい森林公園へ続く道に、ギャンブル場のたて看板や幟が並ぶ光景を想像してみてください。私たちの愛する町が、このことでどのように変化していくのか、津幡町の品格はどうなるのか、私たちには今、大きな責任が課せられています。後で悔やんでも取り返しがつきません。

そもそも、この強引なボートピア計画は舟橋地区住民の同意のとり方に疑問があります。町長の突然の容認の経緯についても疑問があります。

津幡町では、まだ警察との協議も、国交省への申請もされていません。議会で一度決めたことは、今更どうにもならないというのではなく、津幡町の将来のために、どうぞ立ち止まって真剣に考えていただきたいと願い、私の賛成討論といたします。